

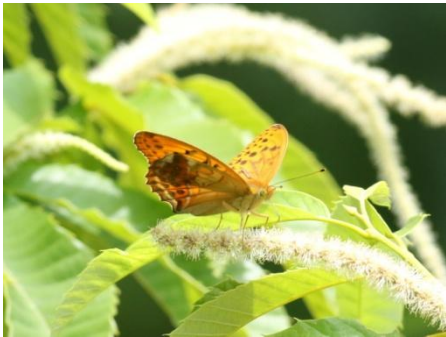


## 愛川ふれあいの村6月の風景

# 平成28年6月 自然のたより

梅雨に入ったとは思えないほど、雨が降らない6月。アジサイは雨を待っているかのごとく、空に向かって花を咲かせています。村内のいたるところで、昆虫や鳥、植物など全ての生命が躍動しています。

また、夏鳥であるオオルリも数年ぶりに姿を現し、少し休憩をしているようでした。



ウラギンスジショウモン



タイサンボクの花



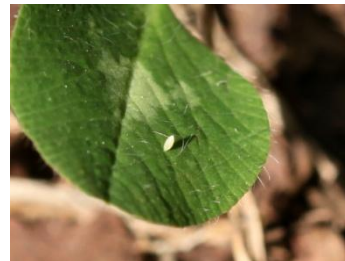
オオルリ



エゴツルクビオトシブミ



モンキチョウの産卵



モンキチョウの卵



低空飛行するツバメ



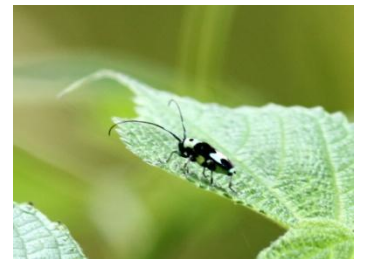
ニワゼキショウ



ジャコウアゲハ



アオバセセリ



ラミーカミキリ



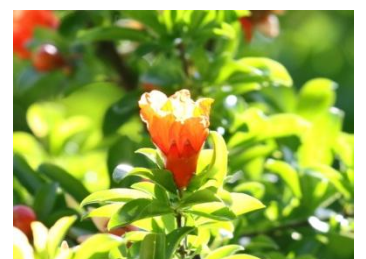
オニグルミの果実



アズマヒキガエル



アジサイ



開花したザクロ



## ◆梅雨◆ ～恵みの雨～

6月、梅雨の季節が始まりました。初夏の到来です。

梅雨と言えば、ジメジメとした湿気がまとわりつく暑さや雨が続き、なかなか現れない太陽が恋しくなったりと、良いイメージを持っている方は少ないでしょう。

しかし、この時期にまとまった雨が降らないと、私たちの生活に困った影響を及ぼすことがあります。それは、生命活動に必要な「水」が足りなくなるということです。

飲料水やお風呂、トイレなど、私たち人間の生活に使っている水は、ダムに蓄えられた水を使用しています。ダムから川へ、川から浄水場へと流れ、水道水が作られます。当たり前ですが、雨が降れば降るほどダムの水は増え、反対に雨が降らないとダムに水は溜まりません。雨が降らず、ダムの水が少ないにも関わらず、無意識に水を使うとダムの水は無くなってしまいます。

水不足の歴史に、『平成6年渇水』という九州北部から関東地方までの広範囲で大規模な水不足が起きた年がありました。これは、例年より梅雨が短く雨の量が少なかったことや気温が高かったためにダムの水が蒸発してしまったことなどが、水不足の原因として記録に残っています。

特に、当時の九州北部や長崎では水不足が深刻で、田んぼの稲など、作物が枯れてしまう事態に陥っていました。当然水不足が叫ばれている中で、いつものように水が使える訳が無く、九州の一部地域では、夜間に水が使えなくなる『夜間断水』などが行われました。さらに関東でも水不足になり、一部地域で家庭で使える水道の量が制限されたり、公園の水道が止まったり、プールが使用中止になったりしていました。そう考えると雨は私たちの生活にとって必要不可欠なのです。

水は普段の生活の中で一番使うもの。歯磨きや食器洗いなど、つつい出しばなしにして無駄に使ってしまいがちなものです。

雨のおかげで水を使うことができているのだということを忘れず、大切に使用したいですね。(天野)



## ▼親から子への贈り物▼

木の葉で「ゆりかご(揺籃)」を作るオトシブミという昆虫を知っていますか？

初夏になると、エゴツルクビオトシブミの雌はエゴノキの葉で揺籃を作ります。体長6～8ミリと小さな体で、大きな葉を折ったり切ったりして作り上げ、中に卵を産みます。

この葉の中で卵からかえり、葉を食べながら成虫になるまで過ごします。幼虫の家と食料を兼ね備えた「ゆりかご」は、親が子のために手間暇かけて手作りした贈り物なのです。



## ★旬のお知らせ：ザクロ★

濃い緑の葉にオレンジ色の花を咲かす、ザクロ。ちょうど花が咲くシーズンです。

ザクロの果実は約2割しか食用にならないですが、アントシアニンやタンニンなどのポリフェノールを含んでいるため、抗酸化作用が期待できます。そんなザクロの果実は、秋口からが旬になりますが、意外にもいろいろな店で使われています。ザクロの果汁をシロップにした『グレナデンシロップ』というもの。「ザクロから生まれたもの」という意味で名付けられたようです。このシロップはカクテルで使われているようです。

ザクロの果実は秋に実りますので、花から果実になる様子を観察してみましょう。(大瀧)



## ◎7月の注目ポイント◎

### 注目ポイント◎

梅雨明けの時期から、ふれあいの村ではセミの大合唱が始まります。セミの鳴き声が聞こえだすと夏を感じます。さてそんなセミの羽化シーンを見たことはありませんか？

セミは、幼虫として地中で三年から十七年過ごしたのち、成虫になるために地上に出てきます。晴れた日の夕方、地上に現れ、木の幹や葉っぱの裏で日没後から朝方にかけて、羽化を行います。幼虫の背中から、白い成虫が姿を現し、徐々に翅を広げていきます。時間にしておよそ5時間。そのシーンは、まさしく自然の神秘と言っても過言ではありません。

ただしこの羽化は、必ずしも成功するとは限りません。羽化中にスズメバチや鳥に襲われたり、地上に出たものの羽化に適した場所まで辿り着かなかったりして途中で息絶えるものもいます。セミの羽化シーンを見るときは、ぜひ温かい気持ちで見守ってください。

ふれあいの村では、柿の木やメタセコイアの木でよく見ることが出来ます。(高橋)



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・鷺山裕・天野智裕・梅本恭代・高橋博・大瀧裕基子

文章：天野智裕・梅本恭代・高橋博・大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★